

# 格納容器内 推定毎時530ㇼ

## 福島第一2号機 足場に穴 調査難航か

東京電力は2日、メルトダウン（炉心溶融）した福島第一原発2号機の原子炉格納容器内の放射線量が、推定で最大毎時530ㇼに達すると明らかにした。運転中の圧力容器内部に匹敵する線量で、人が近くにとどまれば1分足らずで死に至る。また、圧力容器直下の作業用の足場には1ㇼ四方の穴が開いていることも判明した。溶けた核燃料（デブリ）が落下し、足場を溶かした可能性もあるという。

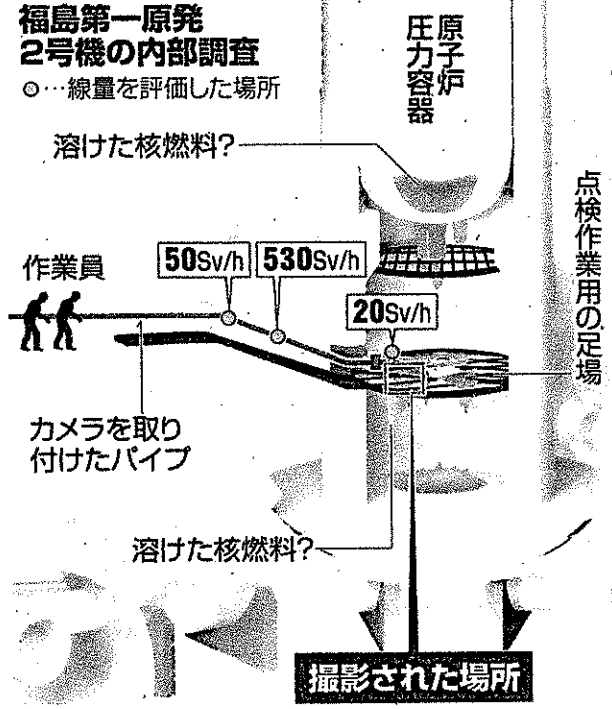
▼31面＝想像を超える線量  
東電は1月下旬から、圧

力容器の直下を遠隔カメラで調査している。放射線による画像の乱れから線量を評価したところ、格納容器内の一部で最大で毎時530ㇼに達すると推定された。東電は「線量を直接計測したわけではなく、誤差もある」としながらも、溶け落ちた核燃料が飛び散り、格納容器内で強い放射線を出している可能性があるともみている。

東電は今月にも調査ロボット「サンリ」を投入し、格納容器内の各部の線量を測って核燃料の広がりなどを調べる予定だ。だが、カ

メラ画像を解析した結果、サンリが動き回る予定の作業用足場に複数の穴が開いていることが判明。外れた

福島第一原発  
2号機の内部調査  
○…線量を評価した場所



足場に熱で溶けたようなゆがみが見られることから、東電は「溶けた燃料が圧力容器から落ち、足場を溶かして穴ができた可能性がある」と説明した。

穴はサンリが予定している走行ルート上にあり、大きいもので1ㇼ四方とみられる。東電はほかの進入ルートを検討するとしているが、調査は見通せなくなつた。

(杉本崇)